

## 第五報 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による 内服薬処方箋動向変化につきまして

株式会社日本医薬総合研究所  
営業企画グループ

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大が続き、その影響や対策に世界中が注力する中、日本調剤グループで医薬コンサルティング事業を行っている株式会社日本医薬総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：三津原 庸介）では、独自に運用する「処方箋データベース」をもとに、COVID-19 感染拡大が薬局での処方箋応需に与えた影響を調査しておりますが、このほど2020年8月の追加データを加えた第五報がまとまりましたので、ご報告いたします。

### <影響分析対象項目>

医薬品市場は、[市場] = [施設情報] × [医師情報] × [患者情報] × [薬剤情報] × [投薬情報] の5要素で捉えることができます。

五回目の今回は、内服薬の処方動向に対して COVID-19 感染拡大が与えた影響を分析しております。

#### ① 内服薬の処方動向分析

2019年1月から2019年12月までの月次あるいは週次平均値を100%（基準）とし、2020年1月から2020年8月までの期間で集計しました。月次集計には弊社月次処方データベース RI-CORE を、週次集計には週次処方データベース RI-CORE(weekly)、及び日次処方データベース RI-PDS を使用しました。

- ・対象期間：2020年1月から2020年8月
- ・対象店舗：日本調剤 573店舗（2020年8月現在、2019年1月以降の新規店舗を除く）
- ・対象薬剤：内服薬

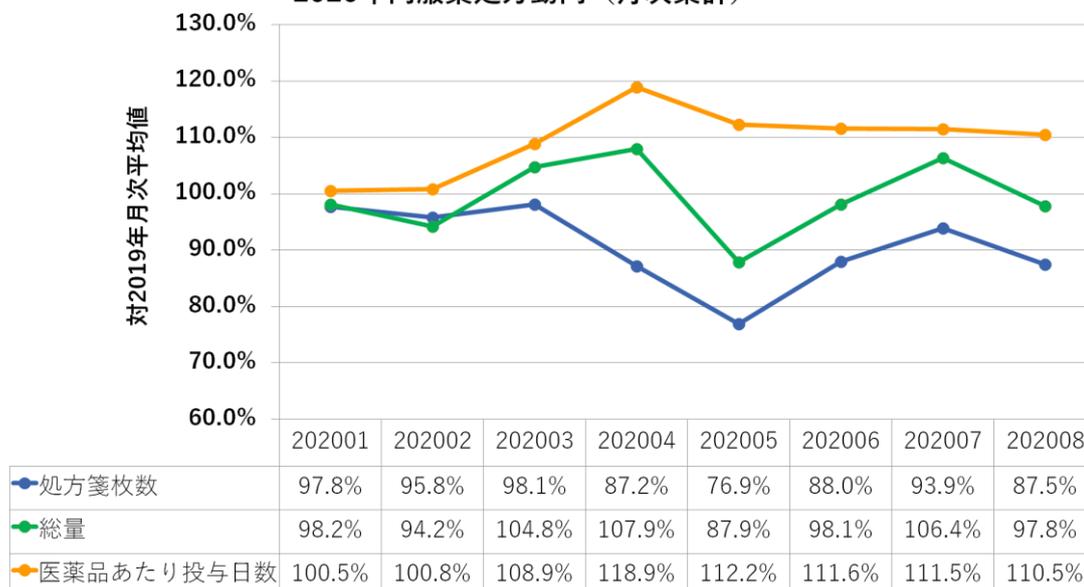
### <月次集計>

過去の報告（第一報～第四報）と同じ集計方法で8月データを追加しました。

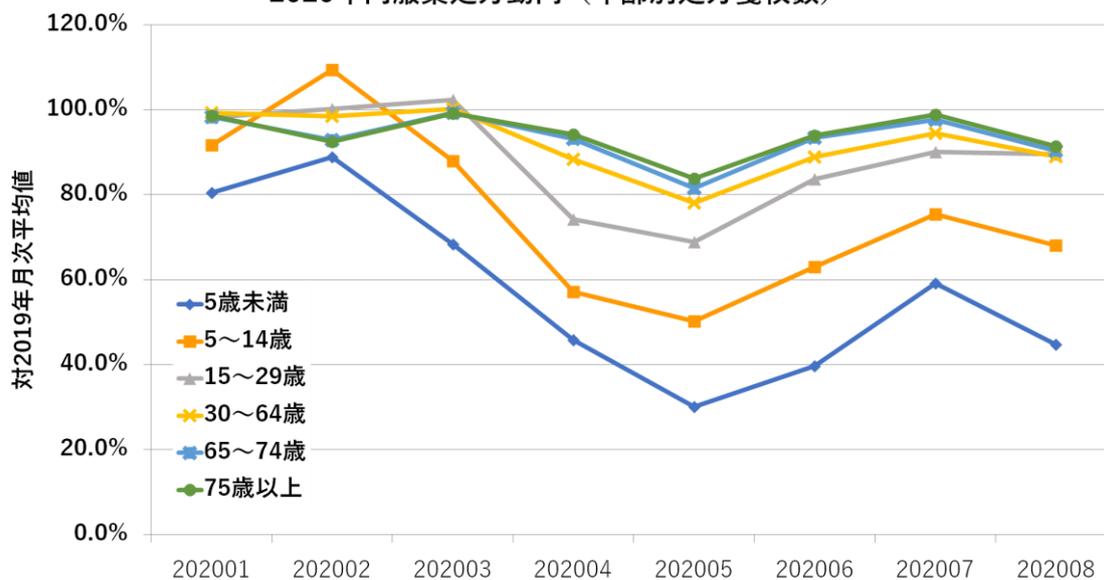
処方箋枚数は、6月・7月と回復傾向でしたが8月で前年平均の87.5%まで落ち込みました。一方、投与日数は6月・7月と同程度の110%程度を維持しています。その結果、8月の総量合計は7月から少し落ち込み、97.8%となりました。

年齢別では、6月・7月で回復傾向が見られていましたが、8月は全世代で減少傾向となりました。8月はお盆休みがあるため営業日数が少ないことが処方箋枚数減少に影響していますが、7月下旬に東京都感染者数が400人を突破した影響で患者が受診控えした可能性も考えられます。

2020年内服薬処方動向（月次集計）

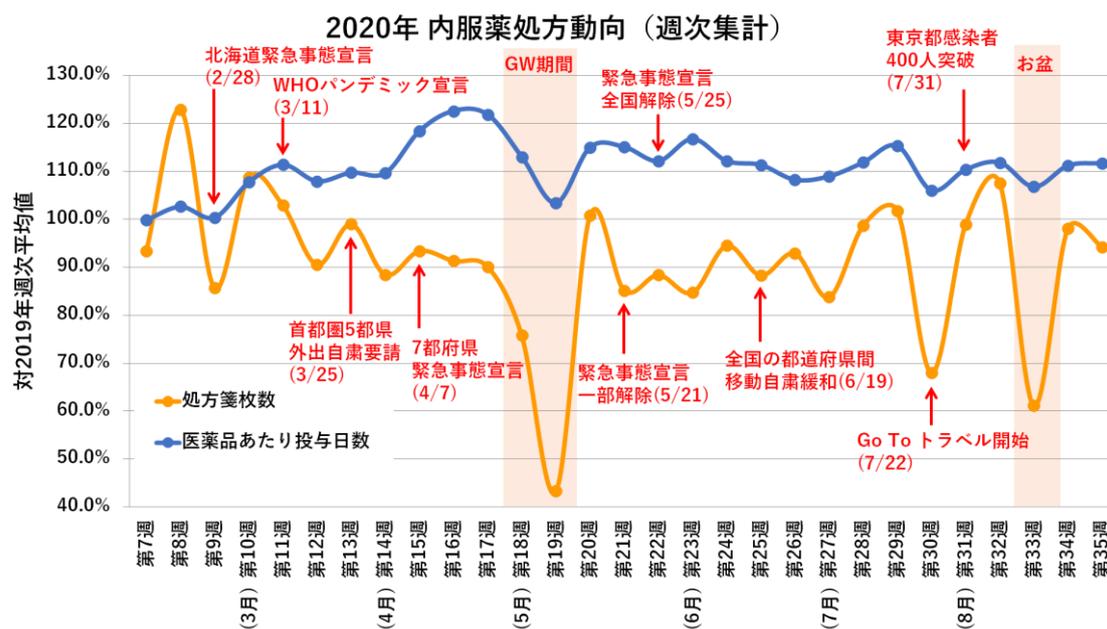


2020年内服薬処方動向（年齢別処方箋枚数）



## ＜週次集計＞

月次集計と同様、処方箋数の変動はありますが、投与日数は前年比110%前後での処方傾向が続いています。



今回はこれまでと同様、月次・週次の処方箋枚数、医薬品あたり投与日数の集計を行いました。現在、前回の有効患者数のように、これまでと異なる視点でCOVID-19感染拡大による処方動向変化を分析しております。今後も引き続きCOVID-19が医薬品市場に与える影響について分析を続けてまいります。

[本件に関するお問い合わせ先]

株式会社 日本医薬総合研究所 営業企画グループ

E-MAIL: [soken-info@jpmedri.co.jp](mailto:soken-info@jpmedri.co.jp)

TEL: 03-6810-0812 (代表)

URL: <https://www.jpmedri.co.jp/>